現地対策本部救援記

避難所に向けた物資を運びこむ静岡の仲間（芦屋市役所）

機動力を発揮して被災地に向う「救援ライダー」

全国から連日、仲間が続々と

生命と生活を守る最前線に

ガンバレ兵庫の仲間たち

自治体労働者の真価を発揮して救援活動

一月十八日、西宮市の兵庫自治労連に設置した現地対策本部は、不眠不休で、救援活動に全力。全国からの救援者、ぞくぞくと送られてくる救援物資の対応におわれる。被災から十三日目の一月二十八日、二十九日、対策本部に入った救援者は一千百五十人以上となった。

物資搬入者がゴミ収集車に早変わり

二十八日午前七時三十分すぎ、西宮市職員会館に泊まり込んでいる静岡市労連、下田市職の救援隊が芦屋市に出発、午前八時すぎ到着。芦屋市役所地下駐車場は、全国から送り込まれた救援物資で一杯。「薬を積んで」の声に、配車した車への物資の積み込みが始まる。二十五日から車四台で駆けつけている神奈川・三浦市職労の仲間も疲れを見せずに活動。市役所玄関には大阪・寝屋川市職労の救援物資を積んだ車四台が到着。搬入後清掃車に早変わりし直ちにゴミを満載。ロビー、事務所内は足の踏み場もないほど避難者で埋まる芦屋市庁内一階では、被災受付に列ができる。この日芦屋市に入ったのは大阪、京都などから一六八人、要望調査、ゴミ収集、避難所の世話などで奮闘した。

「よろしく頼みます」と被災老人

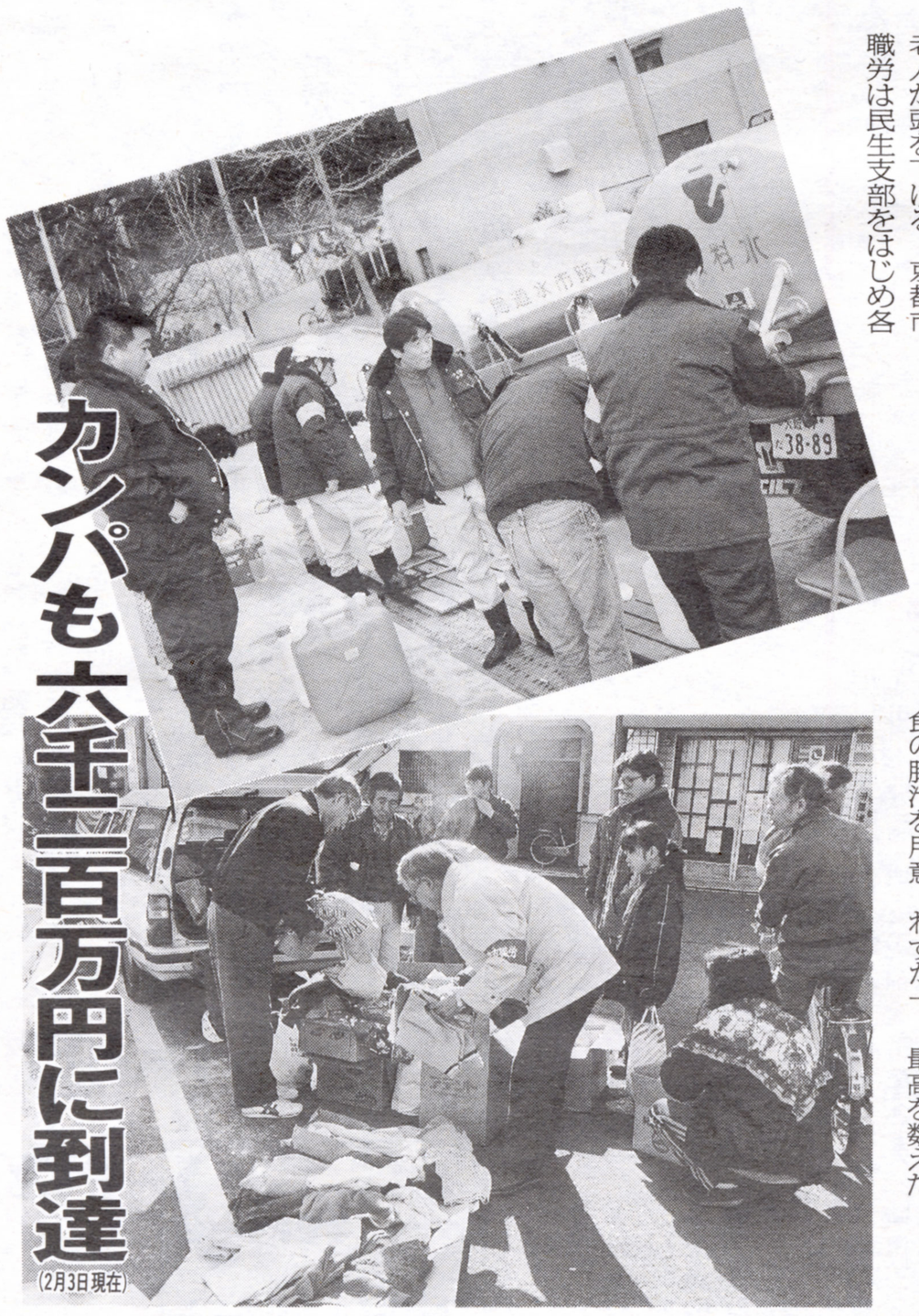
一方、現地対策本部前には、朝から救援隊がぞくぞく到着。京都府職労のワゴン車が救援物資を積んで到着すると「いただいていいですか。下着、コンロ、風邪薬がほしい。みんなに配ってほしい、よろしく頼みます」と女性の一人暮らし老人が頭を下げる。京都市職労は民生支部をはじめ各支部の組合員が救援物資を背負って到着。大阪・枚方市職労の参加者には、市職労の救援派遣を聞きつけたイラン人のモハメド・ホシヤさんも加わり二五人が参加。近畿反核ライダーのメンバーも救援ライダーとして奮闘。このほか和歌山御坊市職、京都城陽市職労、奈良水労などからぞくぞくと駆けつける。

班を組んで、訪問・物資配給に出発

午前九時すぎ、本部福島書記長が「いま被災者は生きていくのが精一杯だ。兵庫の自治体労働者は不眠不休でがんばっている。自治労連が市民の命と生活まもる最前線にたって、被災者と連帯して頑張りましょう」と二百人を越す救援者を激励。現地対策本部の柳沢本部長代理、後藤田中執の状況報告、指示をうけて救援者は、班を組み急ぎ被災者への相談訪問や物資届けに出発した。また、吹田市労連の百十人は郵便物資の仕分け作業。午前、炊き出し二千四百食を避難所に配った大阪自治労連は、昼に西宮市夙川河川敷で一千食の豚汁を用意、わずか一時間でなくなる。「寒さと不安の毎日、このようなことをしていただき大変うれしい」と被災者。

「救援ライダー」走る

「救援ライダー」の野上（滋賀県職）さんは「倒れた建物の放置など現状は危険だらけ、水、ガスそして家の事など被災者は不安でいっぱい」と訪問状況を報告。二十八日現地対策本部に入った救援者は震災以後最高を数えた。


被災者を訪問し、実情に即したきめ細かな救援活動にあたる支援者

カンパも六千二百万円に到達（2月3日現在）

兵庫自治労連の前は朝から救援者でいっぱい

の声

高橋純子さん（岩手・陸前高田市職労）
兵庫県のみなさん心からお見舞い申し上げます。昨年の神戸の働く婦人のつどいに参加し、とても人ごとには思えません。一日も早く立ち直れますようお祈りいたします。

樋田道子さん（都職労共済支部）
兵庫県南部地震で被害を受けた方にお見舞い申し上げます。私達もできることで応援したいと思います。大変でしょうが頑張って欲しいです。兵庫自治労連婦人部結成したばかりなのに…みんなが応援しています。〝ファイト〟

飯島れい子さん（神奈川・三浦市職労）
阪神大震災に私共職場で早速救援カンパを致しました。一刻も早く復興されるよう願っております。

鬼頭慶一さん（愛知・春日井市職労）
阪神大震災の現地での混乱した様子が刻々と伝えられていますが、何よりもこの寒空に家族を失われたり、家を失われた方々、また、独り暮らしのお年寄りなど弱い立場の方々のことが心配されます。政府があらゆる手を尽くすよう、強く要求します。自らも自治体労働者として頑張ります。

岸田サカエさん（大阪・大東市職労）
阪神大震災は時間がたつほど、その被害の大きさも驚かさせるものでした。わが家も仏壇が落ちてきたりと大変でした。被災地の職員の皆さんは、わが家が大変な方が大勢おられることと思います。体に気をつけて頑張ってのり切ってください。

文字山啓子さん（埼玉・入間市職労）
阪神大震災に胸が痛み、自分にできることは何かな…と考えながら、職場でも家庭でも話題は地震の毎日です。